



TITLE:

京大広報 No. 339

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 339. 京大広報 1987, 339: 363-368

ISSUE DATE:

1987-10-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209341>

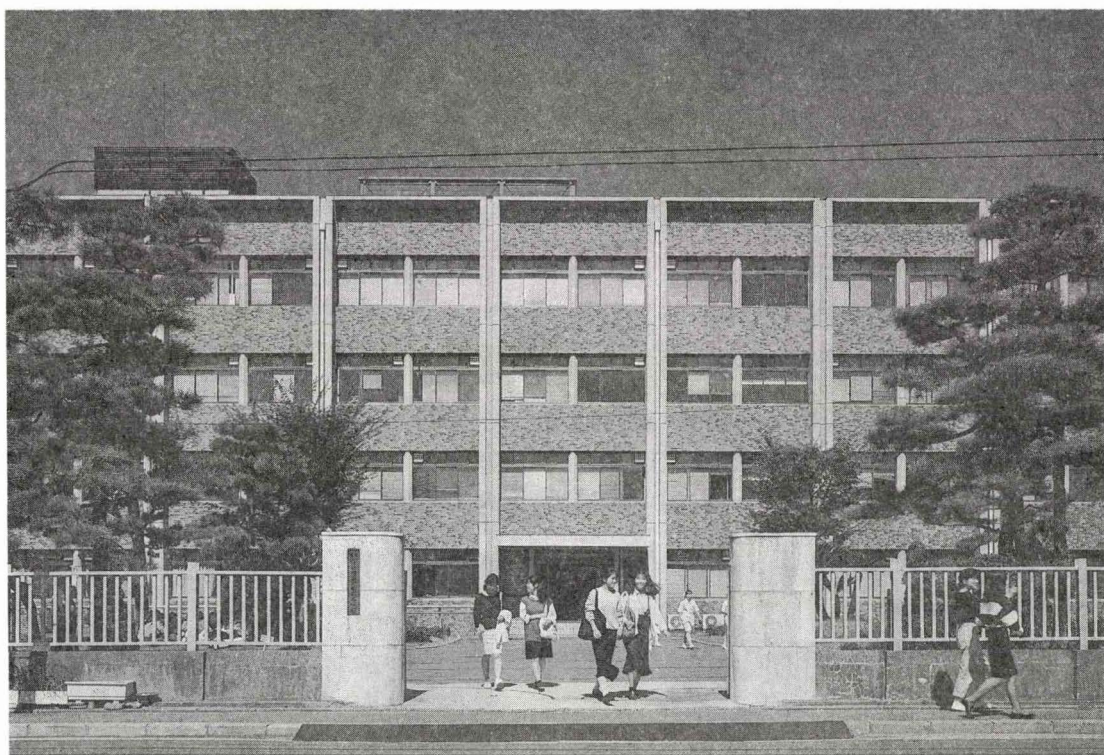
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 339

京都大学広報委員会



医療技術短期大学の正門 ー関連記事本文364ページー

目 次

名誉教授称号授与式…………… 364

<紹介>

医療技術短期大学部

専攻科助産学特別専攻…………… 364

<保健コーナー>

ウイルス性肝炎…………… 365

<随想>

数値計算について

名誉教授 林 忠四郎…………… 367

日 誌…………… 368

＜大学の動き＞

名誉教授称号授与式

10月2日（金）午前10時30分から、総長室にお

いて名誉教授称号授与式が挙行され、藤縄 昭
元教授（教養部 心理学）に称号が授与された。

＜紹 介＞

医療技術短期大学部
専攻科助産学特別専攻

医療は、人間の生命の充実と、健康の回復、保持、増進を支援するという崇高な目的を持っている。また、医療は関連する学問、技術並びに人間性を統合してはじめて成り立つものである。

近年、わが国では人口の高齢化、社会の高福祉化が進行する一方で、医療は科学技術の急速な発展に伴って細分化、専門化しつつその領域を広げてきた。この現実に対応して国民の健康水準を向上させるために、高資質の医療技術者の養成が強く望まれている。

本短期大学部は、このような社会的要請にこたえて、明治以来の伝統をもつ医学部附属看護学校と同助産婦学校を母体にして、昭和50年に創設され、各校はそれぞれ看護学科、専攻科助産学特別専攻となった。また、医療技術分野における一般教育の重要性にかんがみ、本短期大学部固有の教養科が設けられた。翌51年臨床検査技師学校が衛生技術学科となり、昭和57年にはリハビリテーション領域の医療技術者の質的量的な強化を図るため、理学療法学科と作業療法学科が増設された。現在、本短期大学部は看護婦（士）、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、助産婦の5種のコア・メディカル職を育成する3年制の教育研究機関に成長している。

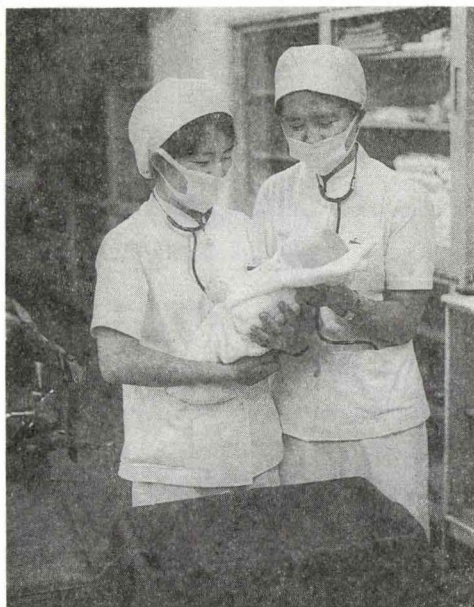
専攻科助産学特別専攻は、3年間の看護教育修了者を対象に、さらに1年間助産学の専門教育を上積みして助産婦の免許が取得できる課程である。従って4年間、看護婦と助産婦となるための専門教育を受けることになる。

本短期大学部の専攻科は、国立としては全国にさがけて設置され、以来12年間、教育研究の実

をあげ、助産婦国家試験も合格率100%を堅持している。

助産学は、人間の性と生殖を中心にして、女性のライフサイクルの中で特に周産期の母性と新生児に焦点をあて、産婦が可能な限り安全・安楽に出産を体験し、最良の健康生活を営むことができるように援助するためのケアの理論化と、技術の開発を行う実践の学である。この中で性に関しては、その規範と意義を学ばせ、性の尊厳を重視する精神と高い倫理観の醸成に努めている。

助産の基本は、産婦の主体性を重視し、産婦が本来もっている生体機能を助長し、自然のメカニズムを十分発揮させることにある。さらに、産婦が情緒的な満足感を得て新たに母としての役割に適応できる人間的成長を促し、望ましい家族関係を確立するように援助する。これら一連の助産過程は、科学的、系統的なステップ学習によってい



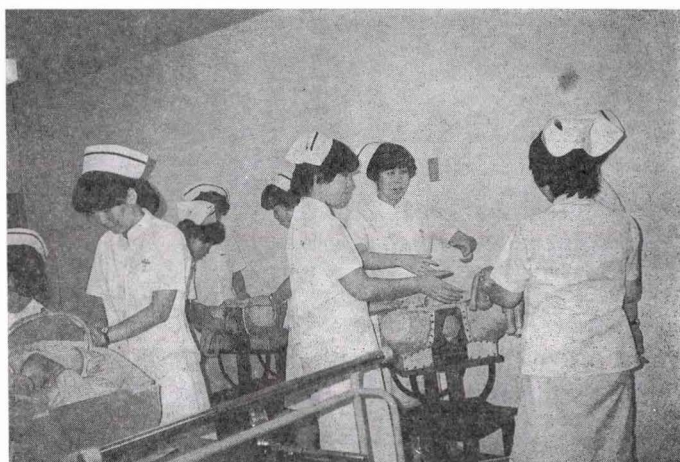
助産実習の一風景

る。また、医用電子機器の使用によって得られる情報の分析ないし総合によって母子の健康状態をアセスメントする能力の開発を行っている。

教育実習に関しては、これを病院で行う場合には、事前に学内で十分なシミュレーション学習を実施して、学生のレベルを高めて臨地実習を行っている。また、生活の場を中心とした保健所及び家庭訪問実習では、周産期の保健管理、結婚教育（性教育）、家族計画指導等を、学生と教官のマンツーマン方式できめ細かく指導している。

助産婦業務の実際は、医師、看護婦、保健婦等とのチーム医療である。その円滑化を図るため各職種間の協力体制並びに教育内容についての調査研究を行っている。さらに、助産婦業務についての社会の認識、要望等の調査、卒業する学生に対する教育目標到達度調査及び意識調査に基づいて教育評価を行い、これらの結果をカリキュラム編成と学生の指導に還元している。

教官の主な研究テーマは、妊産婦管理と新生児のリスク児に関するものである。妊産婦管理は、従来ともすれば軽視されていた妊産婦の安楽性や満足度など妊産婦の意志、情緒を尊重する方向で研究を進めている。すなわち、妊産婦の心理特性と危機状況下の看護介入、種々の妊産婦体位にお



助産実習の一風景

ける循環動態、産痛、分娩進行並びに胎児への影響などについてデータ解析を行っている。これらのデータは和痛分娩管理の開発や分娩期に行うケアの介入の評価ともなり、ケアの理論を明確にすると同時に教育にも貢献するものである。

新生児に関しては、特に小児神経学的見地からの統計調査によって周産期脳障害に関連するローリスク児の予後がハイリスク児の予後より、必ずしも良くないことが確認された。この問題について、現在、ローリスク児の早期発見技術の確立と、出生直後から発達保障的育児を継続した事例の効果について検討している。

（医療技術短期大学部）

保健コーナー

ウイルス性肝炎

肝臓は胸腔と腹腔を隔てている横隔膜の腹腔側面に接して、大部分は体の正中線の右側に、一部分は左側にもおよぶ人体中最大の臓器であり、重さの平均値は1,200gもあって脳に次ぐものである。

肝臓の機能は、1) 消化器から吸収された栄養素から生命の維持と成長に必要な物質を合成、貯蔵し、他の臓器の働きに必要な物質を作って、必要に応じて血液、胆汁中へ送り出す。2) 体に有

害な物質を解毒、分解して、排泄されやすくする。3) 数種の血液凝固物質も作っている。これらのことから「肝臓は、有害物処理機能をもつ化学工場」と考えられている。これ以外にも、肝臓は大切な特質を備えている。それは、もし肝臓が外傷、手術又は肝炎により損傷を受けたとしても、20%以上の残存肝があり、十分な酸素と栄養素と成長促進因子があれば、元の大きさと機能を取戻す再生力を有していることである。だからこそアルコールの好きな人も、かなり横着に肝臓の復元力に頼っていられるのである。上述の如く生命維持に必要な機能と合目的な旺盛な再生力を

併せもつ肝臓に障害をもたらす、生命を脅かす疾患は、肝硬変症、肝臓癌、ウイルス性肝炎などによる急性肝機能不全などである。

肝臓、正確には肝細胞に棲みついたり、攻撃したりするウイルスを肝炎ウイルスという。その代表的なものがA型とB型肝炎ウイルスである。AとかBは特別な意味がなく、とりあえず付けられた符号が現時点では定着しているに過ぎない。その他エプスタイン・バー、ヘルペス、サイトメガロの各ウイルスも肝細胞を攻撃対象とするが、これらにより引き起こされる肝炎の頻度は低く且つ重症でないことが多い。さらに、これら以外にも輸血後肝炎の約80%、散発性肝炎の約30%の原因となる正体不明のウイルスがあり、それらを一括して非A非Bウイルスと呼んでいる。中途半端な理解に苦しむ命名と思われるが、正体が判明すれば、すっきりした名称を持つものと思われる。

これらのウイルスに感染し発症した場合、潜伏期間、症状及び将来の病状経過は病原ウイルスにより異なったものとなる。

A型ウイルスは経口的に侵入し、約1%の症例に重症肝炎を惹起させるが、大部分の肝炎は痕跡も残さない程度にまで治癒し、慢性肝炎に移行することはない。通常ヒト免疫グロブリンの注射により約6か月間、中和抗体を保有でき、この期間はA型ウイルス感染を予防できる。

B型ウイルスは血液を介して侵入するが、正常の免疫力を備えている人は、一部の重症例となる人を除いて数か月後には治癒する。しかし、免疫力が著しく低下していたり、産まれた直後にB型ウイルスに感染すると、ウイルスを中和する抗体が産生されずウイルスは永く肝細胞内で増殖を繰

り返す。このようにウイルスを保有している人をB型肝炎ウイルス・キャリアという。その数は日本人は約250万人、地球上には約1億7,300万人と推定されている。ウイルス保有率は地域差があり、アジア・大洋州では6%、アフリカ6%、ソ連4%、ヨーロッパ、北・中・南米0.5%である。学問的に興味あることとして、ウイルスの亜型を詳しく調べると、地域や人種により亜型の分布に偏りがみられ、人類の発生以来、主として母から子に綿々とウイルスが引き継がれたことが理解できる。

キャリアは肝炎になる率が高いので、ウイルスが激しく増殖している間は医師による経過観察を受けるべきで、また輸血による肝炎の感染源となる可能性があるので献血は控えるべきものであろう。B型ウイルス感染は血液を介するものであり、血液対策により予防できるため糞便及び経気道感染対策は特に必要ない。キャリアは家庭内でも、クラブ合宿などにおいても便所、食器、入浴等に特別な扱いを受ける必要は全然ない。B型ウイルス抗体を持たない人がB型ウイルス陽性の血液で汚染された時には、特殊免疫グロブリンの注射を72時間以内に受けると肝炎は予防できる。このウイルスに感染する危険率の高い医療従事者、ウイルス・キャリアが高率に住んでいる地域で仕事等をする人はB型肝炎ワクチン接種を受ける予防措置を講じておくとよい。

非A非B型ウイルスはB型ウイルスによく似た性格をもつらしいが、その本態は不明であり確実な予防対策がないのが現状である。当面はB型ウイルス感染対策に準じている。

(保健診療所 三浦 賢佑)

日 誌

(1987年9月1日～9月30日)

9月16日 国際交流委員会

// 国際交流会館委員会

18日 同和問題委員会

22日 評議会

24日 ドイツ連邦共和国バイエルン州大学長会議代
表団 Erlangen-Nürnberg 大学 Nikolaus
Fiebiger 学長ほか20名来学，総長及び関係
教官と懇談

25日 防火委員会

// イタリア共和国 Napoli 大学 Luigi M.
Ricciardi 教授来学，総長及び関係教官と懇
談

28日 学位授与式



ドイツ連邦共和国バイエルン州大学長会議
代表団の来学（9月24日）

